

平成 27 年度「シティ・フューチャー・ギャラリー（仮称）」構想検討準備会

第 2 回検討準備会が出された主な意見

- ・ 検討準備会プレゼン資料 p17 のコンテンツの整理は良く整理されており共感が持てる。地域軸については、アジアの中での東京という視点を入れた方が良いのではないかと考える。また、もう少しターゲットの絞り込みをした方がアピールできるのではないかと考える。
- ・ 国際会議を日本の各都市に誘致する際、圧倒的な強さを東京は持っている。逆に魅力を絞り切れないところもあるので、このギャラリーは、ここに来れば東京の魅力が全部分かるような存在になっていくと考える。ここから東京・および日本各地のいろいろな場所に誘導できればよいと思う。
- ・ ターゲットが複数あることについては、たとえば IT のアプリケーションを活用して、視聴者ごとに見せ方を変えることがどこまでできるかなど、技術的な面での可能性を認識した上で検討すべき。アプリケーションは各企業にある程度の自由度を持たせることで、それぞれのニーズに応じたものができるのではないかと考える。
- ・ 都市全体のプロモーション戦略の中で本ギャラリーがどのような役割を果たすかという位置づけを説明した方がよい。今後、場所、規模、見せるもの等、何を優先していくのか、どのような順番で決めていくのかという段取り、シナリオの整理を事務局にはお願いしたい。
- ・ ターゲットの件について、たとえば東南アジアと欧米の人でも知りたい内容が異なるので、ターゲットを「海外」と一括りにはできないのではないかと考える。また地域の民度や GDP に合う展示の仕方があるのではないかと考える。
- ・ 非常にたくさんのコンセプトが良くまとまっていると思う。一番大事なものは、検討準備会プレゼン資料の p19（サイトギャラリー）や、p22, 23（プラットフォームモデル）の考え方だと思う。ターゲット等に関していろいろな意見が出ているように、全てをこのギャラリーの箱の中だけで見せるには限界がある。見せられる実際の街が東京の中にはたくさんあるのだから、コンシェルジュ機能を整備すべきではないかと考える。また p19, 22, 23 の概念を実現する組織づくりが、今後大事な議論になっていくのではないかと考える。
- ・ 最終的にはギャラリーを作ることが目的であるが、実際にどんな手法で、p17 のような都市の構成レイヤーが見せられるのか、規模感など具体的なことを議論すべき。頭の観念だけで議論しては実現が難しいので、具体的な話で検討を詰めていく必要がある。

以上